



セカンドオピニオン外来相談対象専門領域・担当一覧表

対応科 相談を受けられる疾患・領域	担当医師	対象疾患など
----------------------	------	--------

総合診療部

総合診療部	総合診療部	窪田 満(総合診療部長) 中館 尚也(小児期診療科医長)	身体的なものから精神心理的なものまで、複数の診療科にまたがる病態について、総合的な視点から対応します。
		窪田 満(総合診療部長)	先天代謝異常症・肝疾患に関して、御希望があれば受け付けます。
	在宅ケアNICU、PICUからの移行 (特に医療機器、技術に依存する場合)	中村 知夫(在宅診療科医長・在宅医療推進室長)	胃ろうや気管切開など医療機器、技術に依存する在宅ケア、NICU、PICU入院中のお子様などに関して、総合的な視点から対応します。

器官病態系内科部

消化器科	小児炎症性腸疾患	新井 勝大(消化器科医長、小腸移植科医長)	小児期に発症した、クローン病・潰瘍性大腸炎をはじめとする炎症性腸疾患の診断・治療について、幅広く対応いたします。
	小児消化器病	新井 勝大(消化器科医長、小腸移植科医長)	炎症性腸疾患(クローン病・潰瘍性大腸炎)、難治性下痢症、体重増加不良などの消化管の病気とそれに伴う栄養管理全般を対象とします。乳幼児を含む小児の内視鏡検査についてもご相談ください。
循環器科	循環器疾患	小野 博(循環器科医長)	対象疾患は、先天性心疾患、不整脈、心筋疾患、肺動脈性肺高血圧症など小児の循環器疾患全般です。心エコー検査所見、心電図、胸部X線写真などの資料がありましたらお持ち下さい。
呼吸器科	小児呼吸器疾患	川崎 一輝(呼吸器科医長) 樋口 昌孝(呼吸器科医員)	子どもの呼吸に関するさまざまな症状や疾患についてご相談下さい。 詳しくは呼吸器科ホームページへ⇒
神経内科	運動異常症	久保田 雅也(神経内科医長)	ジストニア、ミオクローヌス、振戦などが全身性、または局所性に起こる疾患の鑑別、診断、治療。伝達物質病(瀬川病、AADC欠損症など)、代謝異常、脳炎・脳症後遺症などでてんかん発作と区別しにくい不随意運動、不随意姿勢を呈する疾患が対象になります。
腎臓・リウマチ・膠原病科	小児腎疾患	石倉 健司(腎臓・リウマチ・膠原病科医長)	小児科領域の腎疾患であれば、広く対象とします。
	小児腎疾患	亀井 宏一(腎臓・リウマチ・膠原病科医員)	腎臓疾患(ネフローゼ症候群、慢性腎炎、慢性腎不全、腹膜透析療法、腎移植、その他腎疾患全般)を対応します。
	小児リウマチ性疾患 小児膠原病	小椋 雅夫(腎臓・リウマチ・膠原病科医員)	リウマチ・膠原病疾患(若年性特発性関節炎、全身性エリテマトーデス、若年性皮膚筋炎、原因不明の発熱、その他リウマチ・膠原病疾患全般)を対応します。

生体防御系内科部

免疫科	免疫異常 (免疫に関する疾患全般)	小野寺 雅史(免疫科医長)	免疫不全症及び免疫調節不全などの免疫に関する疾患の診断から治療等を対象にしています。特に、最新の治療法である遺伝子治療についてもご説明いたします。
内分泌代謝科	内分泌疾患、糖尿病、代謝異常症	堀川 玲子(内分泌・代謝科医長)	成長障害(ホルモン異常の他、染色体異常、骨系統疾患等も含む)、性分化疾患、性成熟異常症、下垂体疾患、副腎・甲状腺・副甲状腺疾患、小児糖尿病、糖・脂質代謝異常症など、小児内分泌疾患全般についてのご相談をお受けします。
アレルギー科	アレルギー疾患	大矢 幸弘(アレルギー科医長)	特にアトピー性皮膚炎や食物アレルギーの治療に難渋している方、薬で気管支喘息のコントロールができない方、など現在の治療では病気を克服できず困っている方のご相談に応じます。
	消化管アレルギー	野村 伊知郎(アレルギー科医員)	年齢は新生児から思春期まで、嘔吐、血便、下痢、体重増加不良などがあり、消化管の食物アレルギーが疑われる方を対象にしています。 好酸球性消化管疾患、好酸球性食道炎、好酸球性胃腸炎の患者さまで成人以降の方であっても、治療に難渋しておられる場合は、受付可能です。 当院では、好酸球性胃腸炎の先進的食餌治療を行っております。
感染症科	感染症科	宮入 烈(感染症科医長)	こどもの感染症全般に関わるセカンドオピニオンに対応いたします。サイトメガロウイルスやヘルペスなどの先天性感染症、診断や治療に難渋している感染症、予防接種に関する問い合わせなど、幅広い疾患が対象となります。

遺伝診療科	遺伝性疾患 染色体異常	小崎 里華(遺伝診療科医長)	さまざまな先天異常・稀少疾患(遺伝性疾患、染色体異常、多発奇形症候群、骨系統疾患)や診断不明の方を対象にしています。また、遺伝性疾患等の次世代への影響などについての遺伝相談も受け付けます。
ライソゾーム病センター	先天代謝異常症、特に、ライソゾーム病、ペルオキシゾーム病	奥山 虎之(ライソゾーム病センター長) 小須賀 基通(ライソゾーム病センター医員・遺伝診療科医長)	ゴーシェ病、ファブリー病、ボンペ病、ムコ多糖症などのライソゾーム病や副腎白質ジストロフィーなどのペルオキシゾーム病は、早期診断・治療により患者さんの将来が劇的に変化します。専門医として適切なアドバイスが可能です。

小児がんセンター

小児がんセンター	小児がん(血液腫瘍:白血病やリンパ腫など)	松本 公一(小児がんセンター長) 富澤 大輔(小児がんセンター血液腫瘍科医長) 加藤 元博(小児がんセンター移植・細胞治療科医長)	白血病、リンパ腫など血液腫瘍を対象にしています。ご希望により放射線診断科、放射線治療科、病理診断科による対応が可能です。
	小児がん(造血細胞移植)	松本 公一(小児がんセンター長) 富澤 大輔(小児がんセンター血液腫瘍科医長) 加藤 元博(小児がんセンター移植・細胞治療科医長)	小児がん、非悪性血液疾患、原発性免疫不全症などの治療として行われる造血細胞移植(骨髄移植、さい帯血移植、末梢血幹細胞移植)に関して対応します。ご希望により放射線治療科による対応も可能です。
	小児がん(ランゲルハンス細胞組織球症)	塩田 曜子(小児がんセンター医員)	ランゲルハンス細胞組織球症を対象にしています。ご希望により放射線診断科、放射線治療科、病理診断科による対応が可能です。
	小児がん(脳脊髄腫瘍:内科治療)	寺島 慶太(小児がんセンター脳神経腫瘍科医長)	小児脳脊髄腫瘍[各種脳腫瘍(髄芽腫、頭蓋咽頭腫、胚細胞腫、上衣腫、星細胞腫等)および脊髄腫瘍]を対象にしています。
		荻原 英樹(脳神経外科医長)	ご希望により内科系診療科による対応、あるいは、外科系を合わせた複数診療科による対応が可能です。また、ご希望により放射線診断科、放射線治療科、病理診断科による対応も可能です。
	小児がん(脳脊髄腫瘍:外科治療)	荻原 英樹(脳神経外科医長)	小児脳脊髄腫瘍[各種脳腫瘍(髄芽腫、頭蓋咽頭腫、胚細胞腫、上衣腫、星細胞腫等)および脊髄腫瘍]を対象にしています。
		寺島 慶太(小児がんセンター脳神経腫瘍科医長)	ご希望により外科系診療科による対応、あるいは、内科系を合わせた複数診療科による対応が可能です。また、ご希望により放射線診断科、放射線治療科、病理診断科による対応も可能です。
	小児がん(固形腫瘍)	松本 公一(小児がんセンター長)	神経芽腫、横紋筋肉腫、胚細胞腫瘍、肝腫瘍、腎腫瘍など固形腫瘍を対象にしています。
		菱木 知郎(腫瘍外科医長) 金森 豊(小児外科医長)	内科系、外科系診療科のいずれか、あるいは両診療科による対応が可能です。また、ご希望により放射線診断科、放射線治療科、病理診断科による対応も可能です。
	小児がん(網膜芽腫)	松本 公一(小児がんセンター長)	網膜芽腫を対象にしています。
清谷 知賀子(小児がんセンター医員)		内科系、眼科のいずれか、あるいは両診療科による対応が可能です。また、ご希望により放射線診断科、放射線治療科、病理診断科による対応も可能です。必要に応じて、医師の判断により眼科医が対応することも可能です。	
血液内科	石黒 精(血液内科医長)	血液疾患全般(小児がんを除く)を対象にしています。具体的には、出血性疾患、血栓性疾患、好中球減少症、貧血などです。	
	中館 尚也(小児期診療科医長)	(小児がんを除く)血液疾患一般を対象とし、血小板減少症や凝固異常などの出血性疾患、貧血、血球貪食症候群、アレルギー性紫斑病などです。その他の疾患での対応可能かは相談に応じます。	

臓器・運動器病態外科部

外科	小児外科疾患	金森 豊(外科医長) 藤野 明浩(外科医長)	小児の一般外科に関するご質問にお答えいたします。小児外科疾患の手術や治療方針について相談を受け付けます。その場での回答が困難な場合には院内カンファランスを開催し、後日結果をお伝えする場合がございます。小児外科疾患の手術や治療方針について相談を受け付けます。
	リンパ管・血管疾患	藤野 明浩(外科医長)	リンパ管腫(リンパ管奇形)、リンパ管腫症、ゴーハム病、先天性リンパ浮腫、腸間膜嚢腫、後腹膜嚢腫、難治性乳び胸、乳び腹水等のリンパ管疾患や血管腫、静脈奇形、クリッペル・トレノネー症候群、その他の血管疾患につきご相談に応じます。
	重症・難治性小児外科疾患	藤野 明浩(外科医長)	治療困難となった食道閉鎖、鎖肛、総排泄腔症、腸閉塞、腸瘻、肺・呼吸器疾患、胆道拡張症、遺伝性膵炎、慢性膵炎、リンパ管腫、頸部瘻孔、その他の小児外科疾患につきご相談に応じます。

脳神経外科	もやもや病	荻原 英樹(脳神経外科医師)	もやもや病の外科治療につきご相談を受け付けます。
心臓血管外科	小児心疾患の治療について—手術を中心に—	金子 幸裕(心臓血管外科医長)	先天性心疾患の手術を含む治療法について説明をいたします。必要に応じて、循環器科医の説明も受ける事ができます。
整形外科	上肢の先天異常	高山 真一郎(臓器・運動器病態外科部長) 関 敦仁(整形外科医長)	上肢(肘・手)先天異常に関する治療(治療法の選択・時期など)についてのご相談をお受けいたします。
整形外科	外傷(骨折)後遺障害	高山 真一郎(臓器・運動器病態外科部長) 関 敦仁(整形外科医長)	骨折や脱臼の後遺症の問題についてのご相談をお受けいたします。

感覚器・形態外科部

耳鼻咽喉科	気道疾患	守本 倫子(耳鼻咽喉科医長)	声帯麻痺、声門下狭窄および上気道閉塞による呼吸障害の経過や治療法についてご説明します。
	難聴(先天性・後天性)	守本 倫子(耳鼻咽喉科医長) 小森 学(耳鼻咽喉科医員)	一側性、両側性の難聴について、原因、病態、治療方法、および今後の経過についてのご相談を受け付けます。
	真珠腫	小森 学(耳鼻咽喉科医員)	先天性、後天性真珠腫の手術適応、手術方法やリスク、聴力などについてご説明します。
皮膚科	しみ・白斑外来	新関 寛徳(皮膚科医長)	生後まもなく生じた皮膚色の変化だけでなく、アトピー性皮膚炎の治療中や日焼け後のしみ、白斑など、生まれた後にでてきた皮膚色の変化についても相談を受け付けます。さらにどのような検査をうけたらよいかアドバイスを致します。
歯科	不正咬合(歯科矯正)	馬場 祥行(小児歯科・矯正歯科・医長)	乱杭歯(歯列の凸凹)、受け口、出っ歯、八重歯、あるいは前歯でものが噛み切れない開咬等、歯並びやかみ合わせの診断や治療方法について相談を受け付けます。
形成外科	巨舌症	金子 剛(形成外科医長)	巨舌症(特にBeckwith-Wiedemann症候群に伴うもの)について、治療の適否や手術方法などについてのご相談を受け付けます。
	小耳症	金子 剛(形成外科医長)	小耳症の手術方法や治療する時期などについてのご相談を受け付けます。
	出生前の口唇裂・口蓋裂	彦坂 信(形成外科医員)	出生前に診断された口唇裂・口蓋裂について、治療方針や見込まれる経過などについてご説明します。

こころの診療部

こころの診療部	身体表現性障害、適応障害、摂食障害	田中 恭子(思春期メンタルヘルス診療科医長)	腹痛、頭痛など器質性疾患がすでに除外されている心因性の身体症状で適応障害(不登校など)を呈しているお子様、摂食の問題があるお子様などのご相談をお受けします。
	発達障害	小枝 達也(こころの診療部長)	発達障害の診断と解説を行います。

手術・集中治療部

集中治療科	小児集中治療領域	西村 奈穂(集中治療科医長)	小児で集中治療が必要な病態、疾患に対しセカンドオピニオンを希望されたご家族のご相談をお受けします。
		中川 聡(集中治療科医長)	小児で集中治療が必要な病態、疾患に対しセカンドオピニオンを希望されたご家族のご相談をお受けします。

周産期・母性診療センター

産科	周産期感染症	谷垣 伸治(産科医長)	風疹、サイトメガロウイルス、パルボウイルスなど妊娠中の感染症に関する相談を受け付けます。
母性内科	合併症妊娠	山口 晃史(一般・免疫内科医長)	重症不育症を含む内科合併症妊娠の相談をお受けいたします。妊娠中だけでなく可能であれば妊娠する前にお会いし、患者さんの疾患に合わせた治療方法を考えます。
新生児	新生児疾患	伊藤 裕司(新生児科医長)	新生児期発症の疾患の新生児期の治療・管理に関する相談を受け付けます。

臓器移植センター

移植外科	肝疾患・肝不全	笠原 群生(臓器移植センター長) 阪本 靖介(臓器移植センター副センター長、移植外科医長) 福田 晃也(移植外科医長)	胆道閉鎖、代謝性肝疾患、劇症肝炎を対象にしています。
	肝移植・臓器移植(腎臓・小腸移植を含む)	笠原 群生(臓器移植センター長) 阪本 靖介(臓器移植センター副センター長、移植外科医長) 福田 晃也(移植外科医長)	各種臓器移植後の合併症、免疫抑制剤管理の相談を受け付けます。

放射線診療部

放射線治療科	放射線治療	藤 浩(放射線治療科医長)	小児がんの治療を適切に進めていくためには、それぞれの治療について、正確に理解することが重要です。当科では、小児がんに対する放射線治療の効果、副作用、適応などについて、放射線治療医の立場から説明をさせていただきます。
--------	-------	---------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------

病理診断部

<p>病理診断科</p>	<p>病理診断全般 小児がん病理診断</p>	<p>義岡 孝子(病理診断部長) 入江 理恵(病理診断科医長)</p>	<p>小児、周産期疾患の病理診断についての相談を受けます。 小児がんの病理診断を対象にしています。 ご希望により治療を担当する診療科による対応が可能です。</p>
--------------	----------------------------	-----------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------

上記疾患以外でご相談の際はお問い合わせください。

2017年2月改訂版